

船舶事故等調査報告書

平成26年5月29日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014広第20号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成26年2月1日 14時25分ごろ
発生場所	山口県徳山下松港 山口県光市所在の徳山下松港島田防波堤灯台から真方位012° 700m付近 (概位 北緯33°57.5′ 東経131°55.6′)
事故等調査の経過	平成26年2月5日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	貨物船 第五旭丸 ^{あさひ} 、499トン
船舶番号、船舶所有者等	140077、大阪旭海運株式会社
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	船底に擦過傷
事故等の経過	本船は、船長ほか4人が乗り組み、スチールコイル約1,974tを積載し、船首約3.60m、船尾約4.22mの喫水により、徳山下松港の島田船溜まり ^だ で着岸作業中、平成26年2月1日14時25分ごろ浅所に乗り揚げて通過した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東、風力 2、視界 良好 海象：波高 数十cm、潮汐 下げ潮の末期、潮高 約0.8m
その他の事項	船長は、本事故当時、着岸予定岸壁付近の水深が約3.8m以下であること、及び潮汐が下げ潮の末期であることを知っていたので、測深器を見ながら、着岸作業を行っていた。 船長は、本事故後、乗揚場所付近を測深したところ、泥等が堆積してふだんより水深が浅くなっていた。
分析	
乗組員等の関与	あり
船体・機関等の関与	なし
気象・海象の関与	あり
判明した事項の解析	本船は、徳山下松港の島田船溜まりで着岸作業中、船長が下げ潮の末期にふだんより水深が浅くなっていた岸壁で作業を続けたことから、泥等が堆積した浅所に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、徳山下松港の島田船溜まりで着岸作業中、船長が下げ潮の末期にふだんより水深が浅くなっていた岸壁で作業を続けたため、泥等が堆積した浅所に乗り揚げたことにより発生したものと

	考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ 浅所が存在する水域で離着岸する場合、喫水、潮汐などを考慮して離着岸時刻を調整すること。